

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.63



コロナで増えた通信費

NIIT情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原 嘉一（しのはら・かいち）

コロナ休業の中、大人もリモート会議など

Zoomを使い在宅で働く機会が増えた。子どもたちはその様子を見ながらステイホームを守り続けていた。テレビではタレントもSkypeなどを使い、これまで通り出演していた。その結果、みんながネットに顔を出している。そう思う子どもたちが増えてしまった。塾もリモートで2時間ほど授業を行う。エリアによっては学校もリモートでホームルームを行っていた。子どもにネットを使わせないとかたくなに決めていた家庭が大きく方向転換を強いられることとなってしまった。

そこでの問題は「お金のトラブル」だ。まず、パケット料金。自宅でインターネットを使用する場合、多くの家庭は固定電話と併用して光回線を使用している。その電話料金とインターネット接続に関わる費用は合計され、自宅でのインターネット接続は「無料」の感覚になっている。以前はLANケーブル（有線接続）で接続することが多かったが、無線LANの普及でワイヤレス接続が一般的になった。子どもたちはゲームやネット利用にWiFi接続を使用している。有

線接続なんて知らない子どもも多い。

WiFiで使用する通信費が無料だと、親にも聞かされているのだが、これまではYouTubeやゲームなど、データの送受信量もさほど多くなく、インターネット接続スピードなどあまり意識する必要もなかったのだが、今回のリモートワークは、ダウンロードと同じだけアップロードも行いながらカメラ画像を相手側に届けるのだ。当然のことながらデータ量もかさむ。WiFiでつながれば無料と同じなのだが、各家庭のWiFiルーターには接続できる端末に限りがあり、家族が多くみんながネットを使うと同時につながりにくい人ができてしまう。子ども部屋は感覚が悪く、WiFiが届かなければ、自動的にスマホは電話会社の回線で接続される。ドコモやau、ソフトバンク、格安スマホなどの提供する3Gや4G回線に自動的に切り替わる。これまでは定額利用の範囲で使うことができたため、契約の上限を超えるような利用にはなりにくい家庭が大半だったが、今回のコロナ禍で家族全員が自宅で長時間、長期間、ネットをフルに使用したのだ。これまで経験したこと

のないほどネットを使ったと小学生まで口にするほどだ。ということは、WiFiでつないでいたが、携帯電話回線で使用していたかを気にしていない子どもも多い。6月分のスマホの請求額が高額な家庭が増えているのは、これまでと違う使い方をしたからだ。

WiFiは無料だと信じ、LINEは無料通話ができることを体験し、ネットの通信費なんて考えたこともない子どもたちが、送受信にパケット通信量の多いテレビ電話やテレビ会議をしたのだから、当然通信費はかさむ。LINEの場合、無料電話と呼ばれる通話時とテレビ電話のパケット量を比較すると1時間の利用で、LINEビデオ通話は20倍のパケットを使用する。約1・4ギガバイトを消費するのだ。自宅WiFiなら気にしなくていいが、テレビ電話の使用が普通になってしまった子どもたちは、出先の公園でも使用していたという。親は自分の子どもがテレビ電話なんて使用したことがないはず、と思いついて入っている家庭が多いのだが、実際6月以降に訪問した学校で調査してみると、スマホを持っている小中高生ともほぼ全員がLINEビデオ通話を使用したことがあるという。WiFiじゃない時は無料にはなっていないことが理解できないようだ。携帯電話の請求書など見たこともなく、家族まとめて自動引き落としになっているため、親も気にしていない。電話会社の案内メールも見えていない。引き落としがなかったときに初めて気づく家庭もある。「ネットは無料！」なんてことはない。無料アプリもなかで利益を上げるのだ。

お金の価値を考える消費者教育がコロナ禍の今だからこそ、子どもの頃から必要な時代になってしまったのだ。